

2023年度 学校(自己)評価書 (中等部)

東海大学付属静岡翔洋高等学校中等部

5～1は教員評価 (5よい 4おおむねよい 3どちらともいえない 2やや不十分 1不十分)

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営	特色ある土曜日の授業と多彩な学校行事や部活動による人間的な成長を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴が明確に打ち出され、一人ひとりの教員が、教育方針を理解し、熱心に教育に取り組んだ。 ・教職員は生徒募集目標達成の為に保護者・地域との連携や情報発信に努めた。 ・「夢中って無敵」のスローガンの下、積極的に学校改革に努め、周囲から高評価を得た。 ・定期的な研究授業を実施し、互いに見学し合い研鑽に努めた。 ・教員全体の更なるICTに関するスキルアップが必要となる。 	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・学園・学校の基本的な教育方針を十分に理解し、具体的な目標を持って日々の授業や生徒指導に取り組む。 ・本校生徒の頑張りや教育の特色をHPやFBIにアップすること、広報紙を配布することの二本立てで情報発信する。学年ごとで担当を決め定期的な発信に努める。 ・*S教員の休暇前日の仕事引継ぎを徹底する。学年主任がコンセンサスをとる。 ・学年や教科間での定期的な授業見学の実施。 ・*S教員：日曜日を勤務日とし、その週の平日に週休を取得する教員。
学習指導	基礎学力の定着と、ICTを用いた多角的アプローチにより、学び続ける生徒育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜・金曜の朝の学習とそのほかの曜日での「朝の読書」により、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を始めさせることができた。また「朝の学習」においては、満点でない放課後再試を徹底しているため、生徒の意識は向上した。 ・図書館の貸出ランキングを行った。 ・iPadを用いて授業の指導方法など工夫がなされている。 ・年間3回の授業評価アンケートを通じて授業の見直しを行い、授業改善を図った。 ・基礎学力の向上はもとより、学年の指導により高校進学に対する意識が向上した。 ・家庭学習の習慣を完全に身に付かせるまでには至らなかった。 ・学習のために図書館を積極的に利用させることができなかったが、インターネットを活用した授業が増加している。またCocoaは図書館へ気軽にいきかけとして良い効果があった。 ・土曜日の選択授業は、教員の特徴がよく出ていた。講座ごとに適正人数で本年度は行ったが、次年度は30名まで対応できるようになれば、教室が足りないという問題に対応できる。 	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のつまづき箇所の確認を行い、ICT環境（GoogleWorkSpace）なども利用して、学び直しの機会を定期的に与えることに努める。 ・Smarkyの正答率などから、生徒の抜け漏れをより具体的に把握し、基礎学力の定着に務める。 ・研究授業や、相互授業参観などを通じて、授業力上げる努力をする。 ・図書館の利用した本のランキングを朝礼発表に取り入れる。 ・学年主導による計画的な家庭学習課題を提示し、達成度を確認する。
クラス指導	日常生活、学校行事を通じ、他者との関りを積極的に楽しめる生徒の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・「合唱コンクールや体育祭の中身のレベルアップや建学祭での中等部生の意識改革など」が検討課題であったが、それぞれ改善させるための計画を立て、実行することができた。内容としては合唱コンクールは課題曲の取り組みに重点を置き時間をかけて指導し、丁寧に歌う力をつけさせた。体育祭ではクラスTシャツを作り、更なる意識付けをした。建学祭においても学年ごとのブースを増やし、自らが参加するという形を作ることができた。教養講座については特記事項としてメンタルトレーニングを再度取り入れることができ、来年度もこの項目に力を入れていきたい。 ・担任と教科担当の情報交換を行い、連携の取れた授業展開が概ねできたが、更に確実に取り組むようにしたい。 ・進路について日常的に担任との面談を繰り返し、慎重に進路希望の確認を行った。 ・いじめについては指導において、大きな課題があり、クラスでの生徒間の問題や部活動での友人関係からのトラブルが起こり、何件かは初期対応の遅さから、警察が介入してしまった案件も起きてしまった。初期対応の悪さが課題となった。 	4.1	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会行事を更に中身が充実するよう、しっかりと計画を立てていく。今年度から始まった弁論大会においても、生徒の選出の段階から検討委員会だけでなく、全教員で検討し中等部全体の取組としたい。 ・担任と教科担当は、生徒の学習環境をきちんと管理するために情報交換を行い、スムーズな指導にも心がける。 ・公共の場でも常に生徒が本校の一員であることを自覚した行動ができるように指導を行う。 ・人間関係のトラブルは減少傾向にあるが、いくつかの案件で苦慮したものがあり、今後も教師陣が共通理解のもと素早い対応が課題となった。特に初期対応においてはもう一度全教員で確認をしていきたい。
生活指導	挨拶と礼儀を徹底し、社会で必要とされる周囲から愛される人間の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も、生徒部として「挨拶・礼儀・身だしなみ・美しい環境づくり」を合言葉に活動した結果、確実に生徒にも浸透している。 ・来校者や地域の方にも積極的に挨拶する姿が見られた。 ・教職員は校内の整理・整頓を意識して行った。いつでも、どこでも常に美しい環境を目指し、今後とも清掃を継続していくことが必要である。 ・生徒の頭髪・服装に関しては、一部の生徒で違反が見られ、課題が残った。水曜の1校時に毎月行われる全校集会（翔洋集会）において、注意喚起を繰り返し、生徒への伝達を徹底した。毎週月曜の短い全校集会を、回数は減らしたが時間を十分にとった集会も軌道に乗り始めている。 	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々に「挨拶・礼儀・身だしなみ・美しい環境づくり」を合言葉に教育活動を実行していると認識していただけるように日常的に生徒指導をしていく。 ・登下校の自転車マナーについて、近隣からの苦情連絡も事故も減った。今後も危険箇所の指導は継続していく必要がある。しかし鍵の施錠など自己管理に課題が残った。 ・一方、スクールバス利用者の増加により、各停留所での送迎マナー改善に保護者の協力をいただくことが今後の課題である。 ・担任と教科担当は生徒の学習環境をきちんと整えることを心がけ、始業前の机の配列・挨拶・毎日の清掃活動の指導を日常的に意識して行う。 ・iPad導入に伴い、使用方法や管理については大きな問題はなかった。 ・全校集会の1時間を更に有効に使い生徒指導の向上に努めていきたい。
進路指導	自己分析と適性、正確な情報収集により、具体的な進路決定が出来る生徒の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・秋のオープンキャンパスに全員が参加し、中学2年次で参加させて頂いた「サタデーセミナー成果発表会」の授業を体験することができ、翔洋高校を深く知る機会となった。また、中等部のみ入試説明会は翔洋高校の先生方を知る機会となるとともに、入試に向けての意識を高めるものとなった。 ・今年度も全員が参加する放課後講習ではなく、毎週水曜日にオンライン課題を配信し、未提出者指導まで行った。 ・進路について日常的に担任との面談を繰り返し、慎重に進路希望の確認を行った。 	4.1	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセルコースを目指すのかベーシックコースを目指すのか、悩む生徒が多いように感じた。なので、アクセルコースの教員に実態と魅力を説明いただく機会を設ければ、生徒がアクセルコースがどういふものかを知る機会を作れたのではないかと。
特別活動	部活動や生徒会活動、係などを通じて、人間的に強く、社会のリーダーになれる人間の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への取組に対する評価は、生徒・保護者・教職員ともに共通して高い。ただ募集の観点からいうと誰もが取り組むことのできる総合的な文化部を検討したい。 ・今年度も学年チーフを軸として、生徒間の諸問題に速やかな対応ができ、スムーズな生徒指導とともに、先生方との共有もはっきり行うことができた。 ・生徒会選挙では、多数の立候補者が立候補し、今年度も適切な学校のリーダーを選出することができた。 	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・募集で女子が減少傾向にあるが、新しい文化部を検討し募集に役立てたい。 ・勉強と部活動の両立、部活動の前にはまず勉強、と指導しているが、学習への取り組み状況は今後も課題である。特に5教科以外の教科についてははっきり具体的な学習目標を立てる中で学習させたい。 ・実技教科についても、期末試験の実施を具体的に検討した。最大限の中で実施することができた。 ・生徒会執行部の活躍の場を増やし、積極的に生徒会行事や学校行事に参加させていきたい。 ・建学祭の取り組みについては良くできたと思う。
研究・研修	新人教員教育を充実し、分かる授業、考える授業を実施し、将来自ら学んでいける生徒育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け公開授業を実施し、多くの保護者に来校いただき感想を得た。 ・教員の授業力向上を目的に、学期末ごと授業評価アンケートを実施（生徒対象）。その授業評価アンケートの結果からベストティーチャーを決定した。 ・全職員の授業が魅力的になるよう、今後も研修が必要。 ・新任教員の研修を1年かけて実施。研究授業、振り返り、他の授業見学を通して授業力向上に努めた。 ・全教員で見合う授業研修や各教科での研究授業の実施、ファンリレーション研修や学習指導案作成についての研修を進め、授業力が向上した。 ・総合学習の活性化を目的に、「高校現代文明論」の公開授業で他の付属高校と「探求」について研修会を行った。 ・授業態度や学級の雰囲気づくりを評価し、ベストクラス賞を授与した。中間発表や結果発表や賞品について再考し、意欲を引き出すものになるように考えた。 	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や教員が魅力的であることが翔洋スタンダードとなるよう研修を積み必要がある。 ・多くの職員が学びたいと望んでいる分野について、ゲストを招いて講話をいただき勉強したい。 ・校内研修では、学習授業案づくりを軸に『わかる授業』から『考える授業』へ、ステップアップしていく。 ・現在行われている研究部の研修活動を継続していく。
その他	教育設備 情報発信 来客対応 など	<ul style="list-style-type: none"> ・学校報『SHOYO Nowadays』を月1回程度発刊し、生徒・保護者へ校内の様子を伝えた。また中等部生の活躍を紹介する「羽ばたき」を4月に発行した。PTA広報誌「海潮」の制作では広報委員にご尽力いただいた。 ・学校ホームページ、Facebook、Instagramによって生徒の様子や学校の紹介を伝える記事を発信した。 	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の有効利用を、在校生だけでなく小学生（説明会等への参加者）にもPRしていく。 ・清掃点検をこころがけ、必要に応じて適宜修繕を行う。